



田中 光洋
誠実会

観光・コンベンション誘致の取り組みは

問 ①コンベンション誘致の現状と課題は。

②中長期視点での誘致活動の戦略は。

答 ①平成25年度から地域経済の活性化や交流人口の増加に向けてコンベンション誘致を一元的に行



徳山 威雄
誠実会

福山城築城400年に向けて

問 ①8年後の平成34年に迎える築城400年の記念事業としての改築は。

②水野勝成公や阿部正弘公の大河ドラマ化は。

答 ①史跡は国の指導に基づき「保存管理計画」を策定する必要があり、史跡福山城跡についても

う体制を整備し、取り組みを進めている。現在、ホームページを開設し、広報・宣伝活動を行うほか情報を収集し、誘致活動を実施している。誘致に当たっては宿泊施設・会議場等受け入れ側とのネットワーク構築や支援制度の効果的な活用に取り組んでいる。大規模なコンベンションの誘致には宿泊施設や会場の規模等の課題がある。

②主催団体に対する継続的な働きかけが必要不可欠であり、今後も観光コンベンション協会や関係機関と連携し、中長期の視点に立った効果的な誘致活動を進める。

策定に向けて取り組むとともに、築城400年に向けた整備の在り方等も、今後策定する「保存管理計画」を基本に検討する。

②「水野勝成」や「阿部正弘」は大河ドラマの主人公としてふさわしいと考えるが、全国的に自治体間での誘致活動が激しいことから、課題等も含め、今後、調査研究する。



福山城



法木 昭一
市民連合

子ども会活動の現状などは

問 少子化は地域の子ども会活動にも影響を及ぼしている。

①子ども会の数と加入率、親善球技大会のソフトボールとフットベースボールの参加数などの推移は。

②ソフトボール、フットベースボール以外の活動の実態は。



池上 文夫
市民連合

認知症高齢者への対策は

問 ①認知症による徘徊が原因で起きた行方不明や交通事故死亡事故の実態把握は。

②認知症高齢者の徘徊対策として、地域における高齢者見守り活動の推進やネットワークづくりなど、今後の充実策は。

答 ①認知症により行方不明と

答 ①2010年度と2013年度の対比で、子ども会の数と加入率は65.2団体、83%から60.3団体、75%に減少し、少子化の影響等によるものと考えられる。少年少女親善球技大会の出場チームは、ソフトボールが70チームから69チーム、フットベースボールが62チームから59チームへと減少している。

②秋祭り、とんどなどの地域の伝統行事や、ソフトバレー、英語サークルなどに取り組んでおり、これらの活動を通じて地域とつながりを持ち、違う学年の友達と交流するなど貴重な経験をしている。なっている高齢者は、「福山地区高齢者徘徊SOSネットワーク」に昨年度、家族、親族等からの連絡が32件あったが全て無事発見された。また、昨年度、警察へ直接捜索願が出されたケースは43件あったが全て発見された。

②SOSネットワークに加えて、地域包括支援センターや民生委員介護事業所などにも情報提供を行い、より広範な連携に努める。

※福山地区高齢者徘徊 SOS ネットワーク：福山地区認知症の人と家族の会、市内のタクシー組合、エフエムふくやま、社会福祉協議会などをネットワークで結び、福山南ライオンズクラブ及び市内各警察署の協力を得て、迅速で広範囲な情報伝達により、「徘徊」などで行方不明の認知症高齢者等を早期発見、保護することを目的につくられたもの。